

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「はるが きた」 教材名「はるが きた」

2 単元の目標

言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（〔知識及び技能〕(1)ア）

互いの話に関心をもつことができる。（A(1)オ）

春の場面から見付けたことを話し、友達の話を受けて応答する学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア）	①「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもっている。（A(1)オ）	①春の場面から見付けたことを話し、友達の話を受けて応答する学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

春の場面から見付けたことを話し、友達の話を受けて応答する。この教材では、聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモを残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

教師の独自の短い体験話を聞き、聞けたことと知りたいことを絵や言葉で分ける。本人の家庭事情を尋ねる話題は避け、学校で共通に経験したことも選べるようにする。想定する難しさは、一度に多く質問して返答を聞かない、話し手の内容と無関係な質問をする。評価では、互いの話に関心をもっているかを、聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。教材の絵を手元で見て、見付けたものとその様子を話す。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○教材の絵を手元で見て、見付けたものとその様子を話す。聞き手は相手の話に関わる質問や感想を返し、交代して聞き合う。聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。	思①（発言・活動中の記録・作成物）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

互いの話に関心をもつことができる。(A(1)オ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。 ○「友達が見付けたものについて、もっと聞きたいのは何ですか」 【めあて】春の場面から見付けたことを話し、友達の話を受けて応答する。 〈予想される児童の反応〉 ・ 何をしたかは聞けたが場所を知りたい。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「友達が見付けたものについて、もっと聞きたいのは何ですか」 教材の絵を手元で見て、見付けたものとその様子を話す。聞き手は相手の話に関わる質問や感想を返し、交代して聞き合う。 聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 何をしたかは聞けたが場所を知りたい。 ・ 友達が答えたことをもう一度確かめたい。 ・ 聞くと初めより様子が分かった。	教師の独自の短い体験話を聞き、聞けたことと知りたいことを絵や言葉で分ける。本人の家庭事情を尋ねる話題は避け、学校で共通に経験したことも選べるようにする。 想定する難しさ：一度に多く質問して返答を聞かない、話し手の内容と無関係な質問をする。 評価では、互いの話に関心をもっているかを、聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 互いの話に関心をもっている。 (発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモを見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・ 聞くと初めより様子が分かった。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「友達が見付けたものについて、もっと聞きたいのは何ですか」。中央は、聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモに必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

